

新型コロナウイルスへの感染経験がもたらす恐怖感の特徴分析

新型コロナウイルス（COVID-19）への感染経験は恐怖感に大きな影響を与えており、軽症では恐怖感が減少し、重症では増加することを確認しました。また、この恐怖感は時間経過に伴って減少傾向にあること、年齢や性別、呼吸器疾患の既往歴などの要因も関連していることも見いだされました。

新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックは人々の健康や生活に甚大な影響を与えると同時に、感染への恐怖感も人々の精神的健康や行動に影響を及ぼしました。恐怖感は、感染防止行動やワクチン接種率にも影響を与えるため、パンデミック時の重要な心理的要因として注目されており、性別や年齢、基礎疾患の有無などが関連することが示されてきましたが、個人やその家族の COVID-19 感染経験と恐怖感の関連については、十分な解明が進んでいませんでした。

本研究では、日本全国を対象にした大規模インターネット調査（2020 年から 2022 年までの 3 回）のデータを用い、個人および同居家族の COVID-19 感染経験が恐怖感に与える影響を分析しました。その結果、感染経験の有無だけでなく、症状の重さが恐怖感に違いをもたらすことが明らかになりました。具体的には、軽症の感染経験は恐怖感を減少させ、重症の感染経験は恐怖感を増加させる傾向が確認されました。また、性別や年齢、呼吸器疾患の既往歴といった要因も関連していることが分かりました。さらに、調査期間を通じて、時間とともに恐怖感が低下する傾向が見られました。

本研究の結果は、今後の COVID-19 パンデミック時の精神的健康への支援において、感染経験者に対しては、重症者には恐怖感を和らげるためのサポート、軽症者には感染予防行動を促進する教育が必要であることを示唆しています。

研究代表者

筑波大学医学医療系

太刀川 弘和 教授

研究の背景

新型コロナウイルス（COVID-19）は、感染そのものに対する恐怖だけでなく、隔離や経済停滞、社会的孤立といった状況を通じて、人々の精神的健康に深刻な影響を与えました。感染への恐怖は、うつ病や不安障害といった精神疾患のリスクを高めるだけでなく、感染防止行動やワクチン接種行動にも影響を及ぼすことが知られています。しかし、実際の感染経験と恐怖感の関係については、これまでのところ一貫した結論が得られておらず、特に症状の重さを考慮した詳細な分析は行われていませんでした。

研究内容と成果

本研究では、2020年から2022年にかけて日本全国で実施された大規模インターネット調査（The Japan COVID-19 and Society Internet Survey: JACSIS^{注1)}）を用いて、COVID-19感染経験と恐怖感の関係を分析しました。調査対象は全国の15歳から79歳の男女で、3回の調査全てに回答した15,542人を対象としました。調査では、自分または同居家族の感染経験を「軽症」と「重症」に分類し、恐怖感「コロナ恐怖尺度（FCV-19S）^{注2)}」を用いて測定しました。

回帰分析の結果、表1の回帰係数に示すように、軽症の感染経験は-0.584と恐怖感を減少させ、重症の感染経験は1.244と恐怖感を増加させることが分かりました。また、女性や高齢者、既婚者、呼吸器疾患の既往歴、精神疾患の既往歴を持つ人々は、恐怖感が高い傾向を示しました。加えて、時間の経過とともに2021年は-0.148、2022年は-1.399と恐怖感が全体的に低下する傾向も確認されました（表1）。

今後の展開

本研究結果は、今後も生じる恐れがある感染症パンデミック時の精神的健康支援策を構築する上で、感染経験の内容や症状の重さを考慮した個別対応の必要性を示唆しています。具体的には、重症経験者に対してはリラクゼーションやカウンセリングの提供によって恐怖感を和らげることが、軽症経験者に対しては教育や情報提供によって適切な感染予防行動を促進することが求められます。

今後、より長期的な家族内での感染経験の影響について分析することで、より具体的な支援策につながることを期待されます。

参考図

表1 調査時点を固定効果として用いたコロナ恐怖（FCV-29S スコア）の線形重回帰分析

	回帰係数	標準誤差	t 値	p 値
性別（基準：男性）				
女性	0.707	0.049	14.324	0.000*
年齢層（基準：30-64 歳）				
15-29 歳	0.251	0.091	2.763	0.006*
65-79 歳	0.683	0.056	12.266	0.000*
配偶状況（基準：既婚）				
独身/離婚/死別	-0.462	0.054	-8.507	0.000*
精神疾患歴（基準：なし）				
あり	0.332	0.134	2.480	0.013*
呼吸器疾患歴（基準：なし）				
あり	1.632	0.286	5.703	0.000*
COVID-19 感染経験（基準：非感染）				
軽症感染	-0.584	0.181	-3.229	0.001*
重症感染	1.244	0.217	5.734	0.000*
調査時点（2020 年）				
2021 年	-0.148	0.060	-2.461	0.014*
2022 年	-1.399	0.061	-23.001	0.000*
[切片]	18.274	0.056	329.036	0.000*

[*]: p 値が 0.05 未満で統計的に有意であることを示す

用語解説

注1) JACSIS (The Japan COVID-19 and Society Internet Survey)

新型コロナウイルスが社会に与える影響を広範かつ縦断的に分析することを目的とする、日本最大規模のウェブパネル調査。調査はインターネット調査会社「楽天インサイト」パネルメンバーである全国の15-79歳の男女を対象に実施しており、日本の人口構成に準じた回答が得られるように、性別、年齢、都道府県ごとにランダムサンプリングを行っている。

注2) コロナ恐怖尺度 (FCV-19S)

コロナウイルスに対する恐怖を測定する尺度。尺度は「新型コロナウイルスがとても怖い」「新型コロナウイルスについて考えると不快になる」など7項目からなる質問への自己回答をもとに、7~35点で採点され、合計点数が高いほど恐怖が高いことを示す。

研究資金

本研究は、学術振興会科研費助成金（17H03589、19K10671、19K10446、18H03107、18H03062、19H03860、21H04856、19K19439）、厚生労働科学研究費補助金（19FA1005、19FG2001、19FA1012）、AMED（2033648）より助成を受けて実施されました。

掲載論文

【題名】 Exploring the relationship between personal and cohabiting family members' COVID-19 infection experiences and fear of COVID-19: A longitudinal study based on the Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS)

(個人および同居家族の COVID-19 感染経験と COVID-19 恐怖との関係の探索：The Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS) に基づく縦断研究)

【著者名】 A. Ishikawa, H. Tachikawa, H. Midorikawa, and T. Tabuchi

【掲載誌】 *BMJ Open*

【掲載日】 2024 年 12 月 20 日

【DOI】 10.1136/bmjopen-2024-087595

問合わせ先

【研究に関すること】

太刀川 弘和 (たちかわ ひろかず)

筑波大学医学医療系 臨床医学域 災害・地域精神医学 教授

URL: <https://plaza.umin.ac.jp/~dp2012/>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp